

# 西光寺だより

第二五八号 令和五年 十月一日発行

## ■ 今月のカレンダー ■

念仏というのは 私に現れた 仏の行い

9月のことばの中で告白された「彼」と次のような話をしました。彼「念仏しなさい、念仏しなさい。どの布教使さんもおっしゃっています、どのような心で称えたらいいのでしょうかねえ。」

私「ずいぶん長い間お聴聞を重ねてこられたあなたですから、念仏が商売繁盛、無病息災、家内安全など、自分の欲を満たすためのものではないことは、よくご存じですよ。」

彼「はい、それはよくわかっています。」

私「では、なぜ先ほどのような言葉になったのでしょうか。」

彼「はい、親切にして下さった方々に、口では感謝の言葉を申しておりますが、心の中には、全く逆の思いを持っている。誠のひとかけられない私なのです。」

私「そこが大事なところで、まず、念仏申すということは、自分自身を見つめることだと思っております。もう少し詳しく言えば、阿弥陀さまの法を聞き、自分自身を見つめ、自分自身と出会い続けていくことだと思います。」

彼「なんとなくわかります。でも、阿弥陀さまの法の中で出会ったまことのひとかけらもない私は、清らかで澄んだ心、つまり心を整えてお念仏申すことができない。果たしてこのような念仏で仏になれるのでしょうか。」

私「心を整えないといけない念仏ということになると、整えることができる人、そうでない人という区別が生まれます。」

彼「そうか、そうですね。そのすべての人々（一切衆生）を仏にするという阿弥陀さまの誓いから外れてしまいますよね。」

私「そうですね。でもおっしゃりたいことはよくわかります。ただ念仏しているだけでは頼りない。道徳的に正しくない自分が称える念仏は無効ではないのか？本当にこれでいいのかと不安になったり：といった具合に、自分の考えやからいを差し挟むこととなります。実はそこが問われるのです。」

親鸞さまの師である法然さまは、聞きなれない言葉ですが、『すけささぬ念仏』という言葉を使って教えてくださいます。

これは、何ら私のはからい、考えは全く必要としない念仏ということです。」

彼「そうか、私はつい自分で良い行いをして仏になろうとしていたのですね。」

私「そうです。つまりは念仏を自分の行いとしてしている。それは、自分自身（自我）をあてにしていることとなります。」

念仏は、阿弥陀さまの誓いが私に届いて称えられたのです。そこには自分のはからいはなく、ただ阿弥陀さまの誓いに自己をすつかりあずける、まかせ、ということだと私は思います。」

（法語カレンダー 解説書より）

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

## ◆先月の報告◆

①九月十五日（金）京都大谷本廟墓参に行つてまいりました。徐々にコロナ感染が増える中ではありますが、年に一度の皆さんとの大切なお時間過ごさせて頂いたことであります。ありがとうございます。



②九月二十三日（土）西光寺で仏教婦人会報恩講を厳修致しました。在家報恩講を経て、皆さまご婦人の方々に親鸞聖人のご法事を偲ばせていただきました。ありがとうございました。



## ◆十一月・十二月・一月の行事◆

・十一月 二十三日（木）

### 報恩講法要

午後二時（お勤めと法話あり）

午後七時（お勤めのみ）

西光寺本堂

※講師は調整中。

※感染症・近隣寺院との兼ね合いのため昼のみご法話。

・十二月 三十一日（日）

### 除夜の鐘

午後十一時五〇分

・一月 一日（月）

### 元旦会法要

午前十時